「地域づくり事業」経営計画

【かのこ百合グループ】

江口 玉美　青山 美由紀　上城 智美　高田橋 徳江　野口 修子　松木 洋子

「地域に住む人々と訪れる人々を結ぶ”コミュニティ型観光“開発」の事業の構想

私たちのグループは、委員それぞれが仕事や生活する中で感じる問題を出し合う事からスタートした。甑島に住む委員が２名いたことと委員の仕事内容ので観光に深く関心がある人がほとんどであり、現在の観光のあり方や今後の展望について話し合った。

委員それぞれの立場や職場は違っているが、自治会やコミュニティ協議会活動へ積極的に参加している人ならではの意見が多く出された中で、観光客をもてなす立場と、自ら観光する人として、地域をもっと住みやすい活気ある地域づくりとしてのコミュニティのあり方を考えることとなり、私たちの調査・研究のテーマを「地域に住む一人として『観光』を考える」とした。そして私たちが考える観光とは、末尾に**（注３）**として具体的な例を記した。

現状として把握されたこと・・・

【課題認識①】 現在の地域コミュニティづくりには、活動や行事に一人でも多くの人が参加できるよう、多様な住民のニーズが反映されていない。

【課題認識②】 地域住民のみならず他地域から訪れる人も参加できるような地域の特色を生かした活動など活性化に向けた地域資源の活用がなされていない。

【課題認識③】 観光資源としてなりうる空き家や空き地が生かされていない。

【課題認識④】 地域の特色を生かして、より観光客が要望する場所・交通機関・食事・宿・バリアフリーへの対応をすすめる必要がある。

【課題認識⑤】 廃校跡地など使われなくなった公共施設が有効活用されていない。

活気ある地域コミュニティづくりをすすめる中で、一定の決まった人だけが参加協力する状況はどの地区も一緒のようだ。より多く参加してもらう地域行事や活動にするためには、住民が参加しやすいような内容や興味のあるようなものにすることが必要だが、人口の少ない地域や高齢化のすすむ地域では、地域住民だけの力だけでは限界がある。

また、廃校跡地や空き家空き地がどんどん増えることも、地域の現状として見られる事である。

このような地域コミュニティの現状は、『観光』という視点からみると、【課題認識】②③④に集約されたように、地域住民のみならず他地域から訪れる人も参加できるような地域の特色を生かした活動や行事にするなどの工夫で地域資源として活用できる可能性があることがみえてきた。

また、現状把握をする中で地域に住む一人として、観光の取組がすすむ薩摩川内市ではあるが、在住者の中にも観光への消極的な考え方を持つ人が少なくない。地域の中で少しずつ変化しつつある観光が喜ばしいこともあると同時に、受け入れ側の温度差があることにも気づき、住む人も訪れる人々もお互いに喜ぶ地域行事や活動を資源とする薩摩川内市ならではの観光ができないものかと考えるに至った。

課題として抽出されたこと・・・

①　地域の活動や行事の見直し（再評価）

活気ある地域コミュニティづくりには、地域の活動や行事に一人でも　多く参加できるような工夫が大切である。地域住民のニーズに応える内容になっているか等の観点からの見直し（再評価）を行う必要がある。

②　地域間交流の促進

薩摩川内市の人々の間での地域間交流による人の動きをつくりだすことは、コミュニティ単位での観光につながるとともに、他地区とのかかわりを持つ（交流する）ことにより、異なるやり方やヒントを得ることができ、活気ある地域コミュニティづくりにつながる。

③　地域資源のネットワーク化

①、②の取組を進めることにより、それぞれの地域の特色ある地域資源のネットワーク化が図られることにより、薩摩川内市ならではの観光として生かすことができる。住む人と訪れる人の交流が促進されることは、住む人が楽しい地域であると感じることができる活気ある地域コミュニティづくりにもつながり、住む人も訪れる人々もお互いに喜ぶ観光に生かすことができる。

この構想の付加価値

○各地域の特色を生かすことで資源になる
○地域コミュニティ活動や行事の幅が広がる
○他地域からの行事参加が促進される
○新しいコミュニティ活動が生まれる
○世代間・地域間の交流が生まれる
○自主グループによる自発的活動が始まる
○新たな地域資源や人材が観光に生かされる
○廃校跡地や空き地が生かされる
○行事参加者の人数が増える
○住民と観光客の交流が始まる
○地域住民のつながりが広がる
○住む人や子供たちの郷土愛を生む
○Ｉターンや Ｕターン者の促進につながる
○地区コミュニティビジネスの拡大と経済効果につながる

この構想によって利害が及ぶ人々

○観光をする人
○地域の中に埋もれている地域貢献の意欲のある人
○高齢者や障害を持つ人
○特技や趣味を持つ人
○ボランティア意欲はあるが、その機会にアクセスできない人
○観光業者やそれに携わる人
○空き地や土地を放置している人
○地域の子供たちを含む住民
○地域の自営業者
○出郷者
○地区コミュニティ協議会

長期的（３～５年程度）経営計画

○バリアフリー化されたトイレの確保
○廃校跡地等の利用促進
○**（注２）※「おじゃったもんせスタンプラリー」**の実施と継続
○行事参加型ポイント還元システムの実施継続

中期計画（１～２年程度）経営計画

○各地区コミュニティ協議会のホームページの立ち上げ
○観光を主とする事業主への地区コミの情報提供
○市内行事と各地区コミュニティ行事全体を掲載したカレンダー作成と配布
○地域独自の（注１）※「行事参加型ポイント還元システム」の周知と導入のモデル地区での実施及びモデル地区の経過観察や見直し検討会の実施

短期的（数ヶ月）経営計画

○各地区コミュニティ単位での事業説明
○地域資源の調査及び掘り起こし
○空き屋や空き地で利用できる場所の調査
○地域に住む人々の情報交換会や学習会開催
○地域行事の見直し
○各地区コミュニティ行事カレンダーの作成
○地域独自の（注１）※「行事参加型ポイント還元システム」の周知と導入に関する説明会実施
○ツイッターによる社会実験事業の実施

実現のための制約要因

おじゃったもんせスタンプラリー（地域間交流事業）の実行委員会
ホームページ管理担当者の配属
資金調達（ポイント還元及び組織運営）
ボランティアの確保

（注１）に関する説明

行事参加型ポイント還元システム：地域毎にコミュニティ行事等に参加した場合に参加や出席をした人にポイントをつけて、ポイントがある域に達した時に、地元の特産物等の一覧からそのポイントで交換できるものと交換できるという制度。

（注２）に関する説明

おじゃったもんせスタンプラリー：各地区行事を市内全体的に掲載する行事カレンダーを作成し、その中で地域が選んだ行事等に参加した場合ポイントラリーゲームに参加でき、地域間交流行事として、ポイント毎に地元の特産物と交換できる制度。あらかじめ参加希望地区や団体等に参加要望を聞いて導入するところのみスタンプラリーを行う権利がある。

獲得すべき経営資源

人的資源　（地区コミュニティ協議会・地域住民・組織スタッフ）
物的資源　（おじゃったもんせスタンプラリーの用紙・変換商品または商品券）
財務的資源　（運営資金・ポイント還元のための資金・おじゃったもんせスタンプラリーの資金）
情報的資源　（コミュニティ便り・薩摩川内市観光物産協会・市の広報紙・FM ラジオ・ツイッター・新聞・TV・インターネット

そのために必要なネットワーク化

自らの組織・グループの補強	人的資源として一人ひとりのメンバーの掘り起こし
他の組織やグループとの関係	シティセールスサポーター（観光シティセールス課）　○地域おこし協力隊　○地区コミュニティ協議会　○観光物産協会
特定の個人（特に専門勢力を有する人）	ホームページ作成ができる人　○郷土研究者
対行政	薩摩川内市企画政策部・商工観光部

（注３）　地域間交流の例

例１　下甑島地区のお正月行事「トシドン」に、他地区や観光客を受け入れて見学を行い、年末から年始を観光客と地区住民と過ごせる企画を立案し実施する。一人寂しいお正月を迎えるかもしれない方や郷土史に興味がある方には格好の観光で一人で過ごすお正月もにぎやかになり、新しい交流が始まる可能性も秘める。

例２　鬼火炊きや十五夜の綱編み行事に他地区からの参加をしてもらう。地区のお祭りで小規模で行うような祭りに、隣からや遠方から祭りに参加してもらうまたは、協力してもらうことでにぎやかな祭りになり、高齢化や人口減の地域も労力不足を補うことができて、活気がでる。

例３　各地区の大晦日やお正月に、郷土料理やその料理教室を含めたおもてなしを行うツアーなどを企画し、地域に観光客を呼びこむ。

例４　椿油搾り体験と椿油を使った食事参加ツアーに観光として呼び込む

例５　大晦日の入来神舞見学で年越しをして正月を迎えて、鬼火炊きをするツアーを企画し地域に観光客を呼び込む。

例６　里地区で旧盆に行われる「かずらたて」行事への参加するツアー。早朝よりかずらをとり、それを巻いて綱に仕上げ、独特のリズムの中、ほら貝や鳴り物担当と踊り手、かずらの綱の引き手など観光客にも参加してもらう。

例７　東郷斧渕地区では、年末にしめ縄つくりを中学生に、菜種落しを小学生になど昔の作業道具を使って年配者が指導していてそれらに歴史探検も小学生を対象に行っている。このような行事に他地区からの参加者や観光客を取り込む。

例８　おのぶっ祭と称して、地域間交流と他地区間交流をしながら、メインに人形浄瑠璃･手作りの食べ物や作物・作品と舞踊発表など１日かかりの行事をしている。それらを観光客などの参加を促す。

例９　空き家をカフェに改装し、地域住民と観光客との交流を図る場所とする。

かのこ百合グループ(江口、上城、青山、高田橋、野口、松木)

【テーマ】

地域に住む一人として「観光」を考える

【課題認識①】

現在の地域コミュニティづくりには、活動や行事に一人でも多くの人が参加できるよう、多様な住民のニーズが反映されていない。

・地区コミ行事に参加する人は決まっている
・地域のサロンは送迎があればもっと多く参加できる
・転入してきた人が地域に馴染めないでいる
・地区の行事や市の行事のパンフレットが沢山残っている

【課題認識②】

地域住民のみならず他地域から訪れる人も参加できるような地域の特色を生かした活動など活性化に向けた地域資源の活用がなされていない。

・地域盛り上げ隊の活動がよくわからない
・地域盛り上げ隊をもっと必要としている地域がある
・地域のリーダーに女性の役員の割合が少ない
・観光案内の看板が少なく、不親切である
・甑島では、観光の交通手段となるレンタカーが不足している
・高速船に自転車が乗せられない
・FM薩摩川内の使い方で予想以上の反響がある
・シティセールスサポーターの活動が限られている

【課題認識④】

地域の特色を生かして、より観光客が要望する場所・交通機関・食事・宿・バリアフリーへの対応をすすめる必要がある。

・観光客のリピーターを増やすための観光農園がない
・アリーナに食事をするところがない
・観光客は増加しているが、宿泊する割合は減少している地域がある
・車椅子を使えるトイレの数が少ない
・高齢者の方が歩いて移動するには不安定な場所が多い
・地域を越えたボランティア活動協力者がいる

【課題認識⑤】

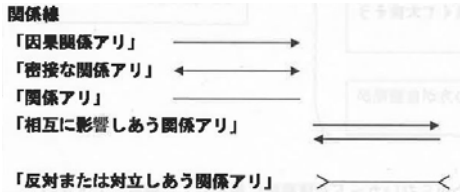
廃校跡地など使われなくなった公共施設が有効活用されていない。

・人口が駅周辺に集まり、校外は減ってきている
・市内中心部だけに人があつまっている
・子どもの減少と統廃合で学校跡地が増えている
・廃校跡地が使用されないまま数年たつところがある

【課題認識③】

観光資源としてなりうる空き家や空き地が生かされていない。

・薩摩川内市の空き家が3345件に対し、空き家バンク登録は16件である
・市の空き家対策として申請を900件依頼しているが、89件申請されたそのうち住めそうなところは40件で内16件が登録されている



《課題抽出のための現状把握の図解》